2020 年　新年のご挨拶

堀尾輝久（９条地球憲章の会代表）

皆さまお元気で新年をお迎えの事と思います。

それにしても新年早々、トランプ大統領の指示によりアメリカ軍がイランの高官を殺害し、イランは報復としてイラクの米軍基地を攻撃したというニュースは、世界を驚かせ、戦争の危機を身近に感じさせるものでした。アメリカ国内でも批判が高まり、戦争ではなく外交こその声に、トランプも矛を収めたかに見えますが、それだけに世界の世論が大事な時です。

トランプの国際法無視の武力行使に対して、武力による報復が米軍基地を置くイラクにも向けられた今回の事態は、基地の国日本、さらに今回の危険な現地に自衛艦の派遣を決めた日本の、国際関係のなかでの危険な位置をハッキリと示すものです。北東アジアの国際関係のなかでも、米軍基地は日本の国を守るのではなく、攻撃の対象にこそなるのだということを改めて感じたところです。

昨年暮れには、中村哲さんの痛ましいニュースがありました。いのちを守るのに武器は要らない、水と緑こそが大事だと、アフガニスタンの危険な地域を水と緑に変える事業に己（おのれ）のいのちを賭け、ここで安全に仕事ができるのは憲法９条があるからだと言い続けて来られた中村さんを守れなかったのは、日本政府の「集団的自衛権」行使容認という名の軍事同盟への歩みを止めさせる事の出来ていない私たちの責任でもあると考えると、いっそう胸が痛みます。私たちは「９条は宝だ」と言って来られた中村哲さんという宝を失ったのです。

一方、暗いニュースのなかで光も見えています。

「おとなは口先ではやっているように言うが何も行動していない。これが一番いけない。」

「今何もしない人は地球を破壊し、未来世代の権利を奪うものだ。」

これは地球規模の気候変動危機を行動で訴えた１６歳のスウェーデンの少女グレタさんの声です。その声に素早く応えたのが国連事務総長のグテレスさんでした。グテレス事務総長は年頭にも、国連サミット(2015 年)で採択された「持続可能な発展目標（SDGs）」の実現への取り組みを強く訴えています。17 項目の目標には、貧困や飢餓を無くし、ジェンダー平等、海と緑の豊かさをとあります。今年の新年の新聞各社の社説には、SDGs に触れたものが多く見られました。

残念ながらこの 17 項目のなかには、私たちの「９条地球憲章の会」の掲げる①非戦、

②非武装、③非核、④非暴力、⑤平和に生きる権利の文字は見られません。しかし、17 項目は私たちが作ろうとしている「地球平和憲章」の５項目の柱に集約されるとも言えます。逆に、私たちの５項目を 17 項目につなげて中身を豊かにすることも今年の課題です。

４月末から５月にかけて国連では核不拡散条約（NPT）再検討会議が開かれ、関連して NY のマンハッタンでは原水禁世界大会が開かれます。できれば、私たちの「地球平和憲章」作りの運動を国際的にアピールする機会にしたいとも考えています。

平和を愛する内外の市民の皆さまと共に、いっそう力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。